

こんにちは。

ピープルファーストヒロシマの近藤竜治です。

私たちは今回の集会の前に会員から意見を出してもらって発表することをまとめました。

まず、ヘルパーの問題です。先日も事業所から「来年3月で2人のヘルパーさんが退職になります。募集をかけるんですが全く応募がありません。そのためヘルパーさんの利用が今まで通りにはできなくなります。」と言われました。

支援費のころから利用してきましたが、ヘルパーさんに来てもらえる時間がだんだん減ってきました。利用時間がへったら市から「利用時間がへっているから希望時間数もそれに合わせてください。」と言われて希望時間ではなくて可能な時間を書くことになっています。

ガイドヘルパーさんは、私たちが会合などで飲んだり食べたりしても一緒に食べたり飲んだりしません。前は一緒に食べたり飲んだりしていましたが、だんだん「それはできないことになっています」と言われるようになりました。ピープルファーストの活動では会食の機会が多いのですがしらけてしまいます。一緒に活動しているという気持ちになれなくなっています。

ヘルパーさんとの人間関係が壊れるとヘルパーさんを派遣してくれなくなります。父親がヘルパーさんの仕事の仕方に文句を言ったら、次の日から来なくなっただけです。風呂に入る手伝いをしてもらっていましたが、一人ではい

るのは大変で困っています。ヘルパーさんに気を使いながら利用しなければならぬというのでは変です。

また、田舎では病院に行ったり出かけたりするのもにも困っています。基本的には公共交通機関を使うようにと言われますが便利が悪くて利用できません。介護タクシーはあらかじめ予約しておかないと希望通りには使えません。タクシー利用も年 15,000 円の補助しかないので持ち出しが必要です。金銭的にも困ります。移動の自由はまだまだ制約が多くて守られていないと思います。

それから、私たちは福祉サービスのことや虐待事件のことなど情報が十分ではないと思います。支援者からいくらかの情報は入りますがその情報も他のところの人たちには伝えることができません。コミュニケーションをとるにも「移動が自由にはできない」「知り合いが限られていて知り合う機会がない」「スマートフォンなど自由に使えない」などハンデは大きいです。

私たちは、毎年市に要望書を出して話し合いをしてきました。

要望書にはヘルパーのことなど支援にかかわることや、虐待の問題、差別解消法のことなど当事者のこえを行政に生かすことを求めて続けています。市は今でも当事者団体と言えれば身体の当事者とあとは家族だと言っています。でも少しずつ変化もあります。

「市役所に行くのはイヤだ。どこに行けばいいかわからん。」という仲間の声があつて、市に「案内板などにすべてルビを打ってくれ」と要求しました。2年

ほどして市役所の案内板にルビがうたれるようになりました。市から出される文書にはルビがうたれるようになってきています。とってつけたようなルビですが一歩前進と思っています。

バスの利用についても市やバス会社と話し合ってきました。ノンステップバスが少ない時には「増やすように。」数が増えてきたら、「乗り降りに不便な所があって困るから広い場所を確保してほしい。」と自由に利用できることを目標に話し合いを続けています。

そして、国では障害者政策委員会の委員からピープルファーストの代表は外されたままです。市との窓口は「精神障害者家族会」「身体障害者団体連合会」そして「手をつなぐ育成会」の3団体が障害当事者を代表しているということで済まされてきました。国をまねしています。それでも何年も交渉してようやく障害者福祉計画を作る時などに私たちの声を聞く機会を設けるようになっていきます。障害当事者として私たちは声をあげ行政に私たちの声を届け続けなければならないと思っています。

最後に、私たちは20年近く知的障害者の権利を奪うなど裁判所と闘っています。法律には今でも「訴訟無能力者」として成年被後見人は扱われています。刑事事件では「責任能力あり」とされ、民事裁判では「訴訟無能力者」とされました。後見制度は使っていません。それなのに国は制度を都合よく使っています。許せません。

「障害のない人と同じ権利がある」ということをもっともっと訴えていかないと「お前は・・・だから」と言って権利を奪われます。

共に頑張って行きましょう。

ありがとうございました。